青森県総合社会教育センター主催事業報告

藤崎中学校　ワークショップ

１　ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	□ 大学進学 ■ 将来の進路 □ 多様な価値観 ■ コミュニケーション □ その他
実施する目的	互いに尊重し、歩み寄りの活動をすることで、さらによりよい人間関係づくりを行い、ふるさとへの興味関心を深め、自己の進路選択の一助とする。
ワークショップ終了後の目指す姿	地域の先輩である大学生たちと交流することを通して、将来についての見通しを考えることができる。

２　要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「　ふるさと　」

この企画のカテゴリーは、将来の進路とコミュニケーションで、実施する目的が「互いに尊重し歩み寄りの活動をすることで、さらによりよい人間関係づくりを行い、ふるさとへの興味関心を深め、自己の進路選択の一助とすることを目的とする。」であることから、テーマは『ふるさと』としてワークショップを進めます。

このテーマとした理由は以下の通りです。

ふるさとは「家族や友人、地域の人との思い出がたくさん詰まっている大事な場所」だということ、そして自分の長所や特技などは、ふるさとの環境の中で培われてきたものであることに気づき、自分の良さや仲間の良さを認め合うことで、自分の長所を発見または再発見することが、それぞれの進路選択の一助として有効ではないかと考えるからです。

上記のことを意識しながら、「地域の先輩である大学生たちと交流することを通して、将来についての見通しを考えることができる。」の達成を目指していきたいと考えます。

３　参加生徒数

第３学年　６６名

４　報告

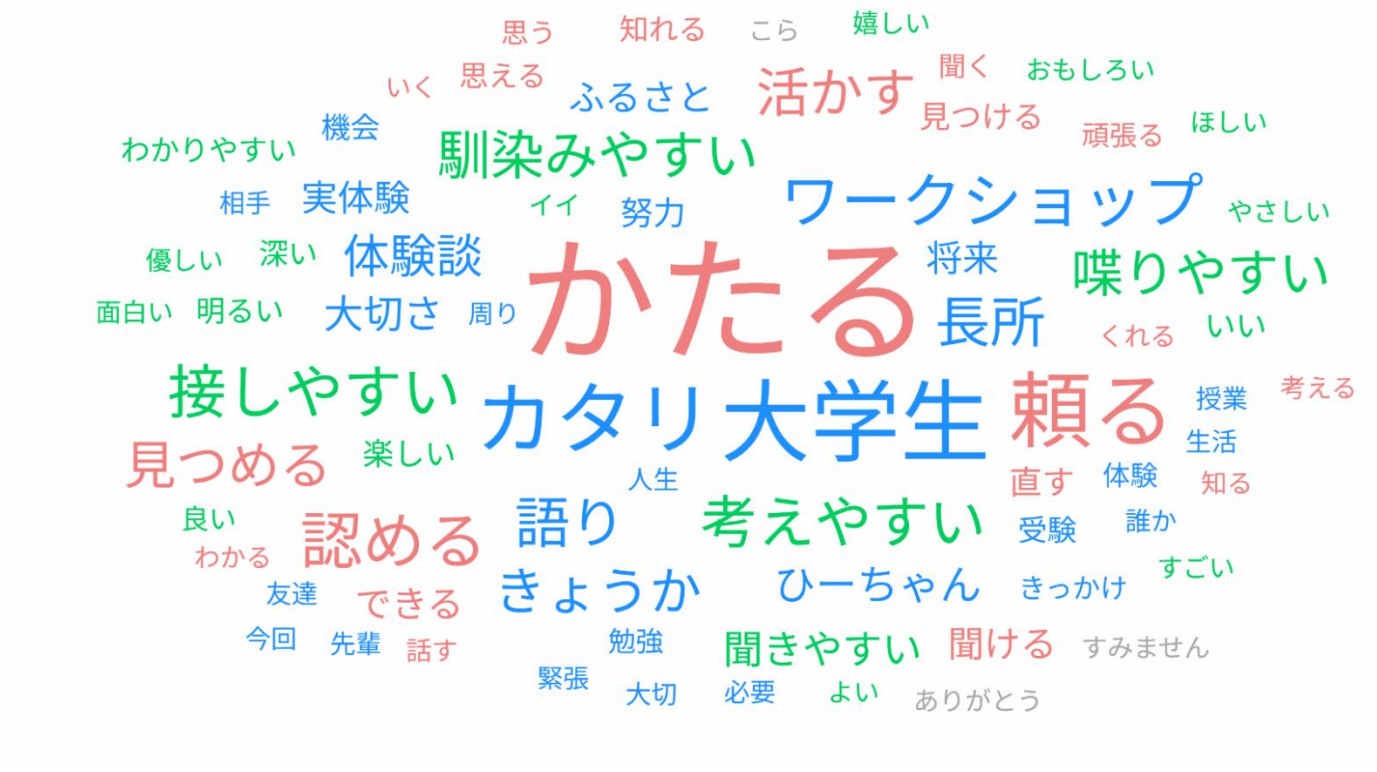
（１）参加生徒へのアンケート結果（有効回答数５３名、有効回答率８０．３％）

ア　有意義度調査

１　ワークショップは有意義でしたか？	３．７９
２　ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	３．８７
３　ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	３．８４

※アンケートはすべて４件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ　自由記述によるテキストマイニング分析



大学生によるワークショップを通して、多くの参加者が自分や仲間の良い点を再発見し、将来や受験に向けて前向きに考えられるようになったと述べている。大学生たちが明るく親しみやすい雰囲気で語りかけ、実体験に基づく具体的な受験や勉強の話を聞けたことで、緊張がほぐれ楽しく学べたことが繰り返し評価されている。また「誰かを頼ること」や「自分の努力を認めること」の重要さに気づき、比べすぎず自分なりのやり方で取り組む姿勢や、努力を自分で肯定する習慣を持とうという決意が多く示された。

（２）学校へのアンケート結果

１　ワークショップの満足度は？	5
２　学校としての実施目的の達成度は？	5
３　生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは５件法で実施。数字が多いほうが高評価。